学校教育目標：　地域とともに夢や目標を実現する力を育てます

六ツ川中だより

発行日：令和5年　9月21日（木）　NO.5
発行者：横浜市立六ツ川中学校　https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/mutsukawa/

相手を敬い、分かち合うことの素晴らしさを

校長　　妹尾　正彦

今年の夏休み、多くの町内会・自治会で夏祭りが久しぶりに再開しました。お祝いに伺わせていただくと、祭りの中で一生懸命お手伝いを行っている生徒の姿に出会うことができました。町内会・自治会の方からお褒めの言葉をいただくことも嬉しいことではありましたが、手伝いをしている生徒の生き生きとした表情、頼もしい姿から生徒の成長を感じられることが何より嬉しい気持ちにさせてくれました。その他にも夏休み期間中に小学校キッズのお手伝いやお祭り以外の地域活動のお手伝いをさせていただいたというお話もお聞きしました。そして先週の日曜日には、六つ川台小学校で行われた大丸フェスタで、30 度を超える猛暑の中、額から大粒の汗を流しながらも黙々と焼鳥を焼き続けている生徒の姿を見ることもできました。

ひとのため、社会のためを考えて行動できる力は、これからの社会を担う生徒たちにとって、本当に大切な力です。そういった一人ひとりの考え方や行動が、これからの社会の温かさを生み、社会全体の文化へと繋がっていくと思っています。学校を離れ、地域という場で活動させていただくことは、間違いなく生徒たちに大きな成長を与えてくれる貴重な学びの機会となります。

公開授業日であった９日土曜日の３校時には「地区別生徒集会」を行いました。横浜市内でも行っている学校はほとんどないこの授業も、「地域で六ツ川中学校の生徒の成長を支えよう」とスタートして今年で 30 年目を迎えました。土曜日にも関わらず、多くの地域の方たちが参加してくださいました。本当にありがとうございました。

最後に久しぶりにハマってしまった TBS ドラマの「VIVANT」から、ノゴーン・ベキという人物の言葉を紹介します。ベキは、4 つの民族の対立から内戦が続いたバルカという国で、自らの家族を殺されながらも、苦しんでいる孤児たちのために孤児院の建設・運営を行ってきた人物です。

「これまで世界は争いを繰り返し、数えきれない程の大切なものを失ってきた。争いは何も生まないと誰もが気づかされた。だが人間は愚かな生き物だ。力を持つ者が持たない者に手を差し伸べない。そればかりか更なる力を求め続ける。今や世界中がそうだ。誰もが自分のことばかりを考え、持つ者と持たない者の間に大きな分断を生んだ。日本もそうだ。だが日本では古くから「あらゆる者に神は宿っている」と考えられてきた。「神は一つではない」という考えから、相手の宗教にも理解を示し、違いを超えて結婚もする。日本には考えの違う相手を尊重する美徳がある。これからバルカは互いの宗教・民族を尊重する国になっていく。そんなことは不可能だと人は言うだろう。だが、決してあきらめない。我々の小さな一歩は子どもたち更にその次の世代へと受け継がれていく。相手を敬い、分かち合うことの素晴らしさをこの国に根付かせる。それはいずれこの国の文化となり、歴史となっていく。この小さな一歩は新しい国を築くための偉大な一歩となる。」

最近の報道や社会を見ていると「日本には考えの違う相手を尊重する美徳がある」という言葉に自信が持てません。だからこそ、子どもたちに「相手を敬い、分かち合うことの素晴らしさ」を根付かせ、これからの社会の文化、歴史に繋げていきたい。そのためにも、今後も引き続き保護者・地域のお力添えをいただきながら、ともに歩む一歩を大切にしていきたいと思っています。